

薩摩川内市長 岩 切 秀 雄 殿

提 言 書

薩摩川内市女性50人委員会

平成26年10月

目 次

1	薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって	
	薩摩川内市女性50人委員会第5期会長 内野 久子	1
2	提 言	
(1)	生活環境分科会	2
(2)	保健福祉分科会	
	(1-1班)	3
	(1-2班)	4
	(2-1班)	5
	(2-2班)	6
(3)	産業経済分科会	
	(3-1班)	7
	(3-2班)	8
(4)	教育文化分科会	
	(4-1班)	9
	(4-2班)	10
3	提言作成経過	11
4	薩摩川内市女性50人委員会名簿(第5期)	14

【参考資料】

中間報告会(まちづくり塾)資料	別冊
-----------------	----

第5期薩摩川内市女性50人委員会提言を行うにあたって

平成17年4月1日に本委員会が設置され、今期（第5期）で10年となります。この間、延べ179人が委員として活動して参りました。生活者の視点で練り上げた様々な提言は、活力ある魅力的な薩摩川内市になってほしいという委員の思いが込められたものでした。提言の多くが何らかの形で市の施策に反映されましたことを感謝いたします。

第1期から4期までは、市政に対する提言を行う＝サービスを受ける側の視点に立つものでした。第5期は新たなチャレンジとして、「多様な生き方をして
いる市民一人ひとりの人権を尊重するために、行政サービスにだけ頼るのではなく、私たち自身で何ができるか」を模索し、私たちはサービスを受ける側であり、サービスを提供する側でもあるとの視点に立ち、地域の一人ひとりの多様な問題に寄り添った問題解決のための地域づくり事業構想の策定に取り組みました。

50人が9班に分かれ、現状把握⇒重点課題の抽出⇒中間報告会⇒解決策の設定と、各班が自主学習会を交えながら、男女共同参画の視点からの地域づくり事業構想を立て、その実現に向けた経営計画をつくることを目標に2年に亘り取り組んできました。地域課題を「誰」が「どのような価値意識」で「どのように認知するか」という課題認知「問い」を立てる作業は大変な困難を伴いましたが、その過程では多くの気づき、学びがあり今後の活動のためのスキルを身に付けることに繋がりました。

今般、事業構想を取りまとめましたので、活動の報告と男女共同参画の視点に立った地域づくり事業構想9事業を提出いたします。

このような機会を設けていただいたことを感謝しつつ、今後も薩摩川内市の更なる発展のために、当委員会が役に立てるよう願っております。

平成26年10月

薩摩川内市女性50人委員会
会 長 内野 久子

「いつでも・どこでも・どなたでも自治会館開放モデル事業」の構想
～フリースタイルのコミュニティ活動・住民の自由な交流活動を目指して～

生活環境分科会 石原（弘）、岩崎、小島、木場、新、土田、濱田、宮里

この事業は、住民が自治会館に気軽に足を運ぶ機会を設け、住民同士が顔なじみになる中で、住民自ら生活課題に解決の向かうような「共助のコミュニティづくり」をねらいとしている。私たち生活環境分科会ではメンバーが普段の生活の中で感じる問題を話し合う中で、それらの生活に身近な問題を共同で自治の力で解決することが期待される自治会やコミュニティ協議会における地域づくりに話が及び、調査・研究のテーマを「住民ひとり一人の声が生かされる地域コミュニティづくり」とした。そして、テーマについての現状把握→課題の抽出を行い、地域コミュニティづくりに向けたコミュニティ活動の活性化の一方策として、この事業を立案した。

現状として把握されたこと・・・①自治会と地区住民が身近な関係にない→自治会加入率の低下、住民の意識の低さ（無関心・役員任せ）、活動している年齢層や内容の偏り、住民への周知不足・住民同士のコミュニケーション不足 ②自治会未加入者も地区コミュニティ協議会会員であることの認識が不十分である→総会は代議員制で自治会関係者が多い、地区コミには専属の職員がいるので、多様な活動が可能である ③ゴールド集落は自治会員の過疎化・高齢化によって自治会活動自体が困難になってきている ④ゴミ問題や防災のような住民の生活に身近で、命に関わるような生活課題が住民全員に共有されていない

課題として抽出されたこと・・・①世代間交流を通じた防災や環境保全の学び ②地域間交流を通じた自治会活動の学び ③公的・私的、属性を超えた地域活動の自主グループの育成・活用 ①～③を集約すれば、地域の人々が生活者の視点で地域生活環境を見直し、共通の課題のもとに自治と共同の力で地域課題を解決していく「共助」の場として、地域コミュニティづくりの目標である地域生活の質の向上と地域生活課題の解決に向けた力をつけるためには、**住民に身近な生活課題を住民全員で共有し、住民それぞれの知識や技術を生かし、住民それぞれが動きやすい体制（しくみ）づくり**の必要性についての課題提起に至った。

「いつでも・どこでも・どなたでも自治会館開放モデル事業」は自治会会員に関わらず、地域住民同士がまずは顔見知りになり、ネットワーク形成の手がかりになるような場の創出を意図している。住民の生活圏域にある自治会館の誰もが歩いていける距離という立地が生かされ、高齢者が散歩の途中に気軽に立ち寄り、交通手段のない住民の避難所となったり、これまで自治会活動に参加する機会が少なかった住民が集まったり、他にも放課後の学童が安心して立ち寄れる場所など自治会館の有意義で多様な活用により、地域の人々が抱える多様な生活課題の改善・好転・解決につながることを期待される。また、「いつでも・どこでも・どなたでも」と自治会館が開放されることの意義は、世代・性別・生活形態等の違いを超えて多様な人々の交流が促進されることにより、そこに培われていく住民間の信頼関係に、人々が抱える困り事や悩み事が自然に掬い出される「場」となり、そこに集う多様な人の多様な力による自発的で弾力的な「支え合い＝共助」の力が引き出されていくことにあると、私たちは考えている。

この構想の付加価値

○コミュニティ意識の醸成が図られる。 ○今まで自治会活動に疎遠だった人等多様な人の自治会活動や行事への参加が促進される。 ○開放的な集いの場から、世代間・地域間等多様な交流が促進され住民間の信頼関係が深まる。 ○コミュニティづくりの担い手となり得る人材が掘り起こされ、自主グループによる自発的・弾力的な活動が生まれる。○住民一人ひとりの声を日常的に聴くことができる場や機会が創出される。○移動手段の確保が困難な高齢者などの緊急災害時の一時避難所として自治会館を使用できる。○身近なダイバーシティ（多様性）体験により人権意識の醸成が図られる。 ○自治会への加入が促進される。

この構想によって利害が及ぶ人々

○閉じこもりがちで高齢者等集いの場・生きがい作りの場を必要としている人
○放課後の居場所を必要とする学童とその保護者 ○孤立しがちな家庭内保育の親子 ○仕事に追われる等様々な理由で自治会活動に参加できない人
○多様化している生活形態や家族形態の変化の中で若者等自治会活動に疎遠になりがちの人 ○自治会に加入していない人 ○緊急災害時における高齢者等迅速な避難が困難な人 ○地域の中に潜在している地域への貢献意欲がある人 ○自治会エリアにおける「いきいきサロン」「親子サロン」等の活動に携わっている人

長期計画

○自治会エリア内（地域コミュニティにおける）の自主グループによる生涯学習、子育て支援、学童・独居老人（独居高齢者）等見守り、コミュニティビジネスや有償ボランティアの活動が軌道に乗り定着する。 ○自治会館が毎日開放され住民間の集いの場として定着する。
○自治会館を拠点とする世代間・地域間等多様な人々との交流活動が盛んになる。 ○自主グループによるコミュニティビジネスが自治会活動（地域コミュニティづくり活動）として自治会に承認される。 ○自治会や地区コミュニティ協議会から活動予算の配分を受ける ○モデル事業としてその成果と課題の報告会の実施

中期計画

○自治会館の開放日の周知等情報・・・開放日を月1回～2回にすることを目標に・発信→ホームページ・ミニ新聞等の作成
○自主グループの増強→活動内容の充実を図るための情報交換・研修の実施
○活動のさまざまな場面で聴く住民の声を集約して自治会と共有する場をつくる。

短期計画

○事業の中心となるメンバーを募る→メンバー間の共有化を図るための学習の実施。 ○モデルとなる候補自治会への事業説明
○モデル自治会への事業についての理解促進運動→モデル自治会で行われている活動の内容等利用状況の調査 ○自治会エリア内の住民を対象にした地域コミュニティづくりに係る学習会の実施 ○モデル自治会の自治会会館で現在行われている活動を延長するという形で月に1日のペースで実施する ○モデル自治会で現在行われている活動を担っている人への事業説明と調整 ○モデル自治会の実施計画説明→自治会エリア内の住民への広報活動

実現のための制約要因

○自治会の理解 ○メンバーの確保 ○当面の活動資金の確保

実現のための制約要因

○活動資金の安定的な確保

獲得すべき経営資源

（人的資源）○自治会員・会員外を問わず地域住民
（物的資源）○場所(自治会館) 備品(机・椅子等)
（財務的資源）○運営資金、(使用料、通信費、飲食費等、消耗品費等)
（情報的資源）○自治会回覧板、防災無線、FM さつませんだい、メール、LINE

そのために必要なネットワーク化

（自らの組織・グループとの関係）○事業の中心となるメンバーからの賛同者の広がり
（他の組織やグループとの関係）○自治会、地区コミュニティ協議会
（特定の個人）○女性50人委員会委員、民生委員、健やか支援アドバイザー
（対行政）○薩摩市役所コミュニティ課

地域に住む若い世代の人達が抱える生活上の悩みや課題に対応できるコミュニティ事業

「ダイアログカフェ(なんでん語ってみろ会)」事業の構想

保健福祉分科会(1-1班) 有馬、犬井、梶原、香山、白男川

私たちは、「皆で支え合いながら安心して暮らせる地域になったらいいね」という思いから始まり、自分たちの住む地域の困り事(悩み)を話していく中で調査・研究のテーマを『地域の人が抱える悩み・支援の地域ネットワークづくり』とした。

【現状として把握されたこと】

- 地域コミュニティや自治会に参加する人が固定化している傾向にあり、特に若い世代の参加が促進されない。・・・参加したい思いがあっても、雇用の悪化により生活・心にゆとりがない。地域に対する思いや行事に対する思いも世代によって異なる。
- 雇用環境の悪化による経済的困難などの生活の悩みが、地域コミュニティとの関わりの希薄化の一因になっている。
- 後継者の県外・地域外就職により地域の高齢化が進み、自治会活動等コミュニティの維持を困難にしている。
- 民生委員・健やか支援アドバイザーの仕事内容(地域で果たすべき役割)が地域の人に理解・浸透しておらず、支援のサービスが届けられるべき人に十分に届いていない。

集約すると・・・人々(特に若い世代)の抱える生活の不安や困難が、自治会活動への参加等地域コミュニティとの関わりの希薄化に起因している。

私たちの住む薩摩川内市は、私たちが若かった頃と比べると人々の価値観の多様化・少子高齢化の進行による家族形態の多様化・雇用就業環境の悪化もあり、人々が抱える生活上の悩みや課題も多様化している事、私たちの住む地域は多様な立場を生きている人で構成されている事への実感を深めた。その事により、これまでなかなか地域コミュニティ活動に「参加しない」と思っていた若い世代・子育て世代の状況に目を向ける事ができ、皆で支え合うという事の意味を改めて考え直す事ができた。

更に、若い世代・子育て世代の抱えている様々な生活上の悩みや課題は、行政サービスのみでは支えきれない事、そこには地域での身近なサポート・地域ネットワークづくりが必要であることが分かり、その事が今後の地域コミュニティの活性化に繋がると考えた。

このような現状を踏まえて・・・【重点課題の抽出】を行い、その過程で私たちは、特にこれまでの地域コミュニティ活動においての関わりが希薄であったために、その抱えている生活上の悩みや課題に積極的に目を向けてこなかった若い世代・子育て世代に焦点を当て、

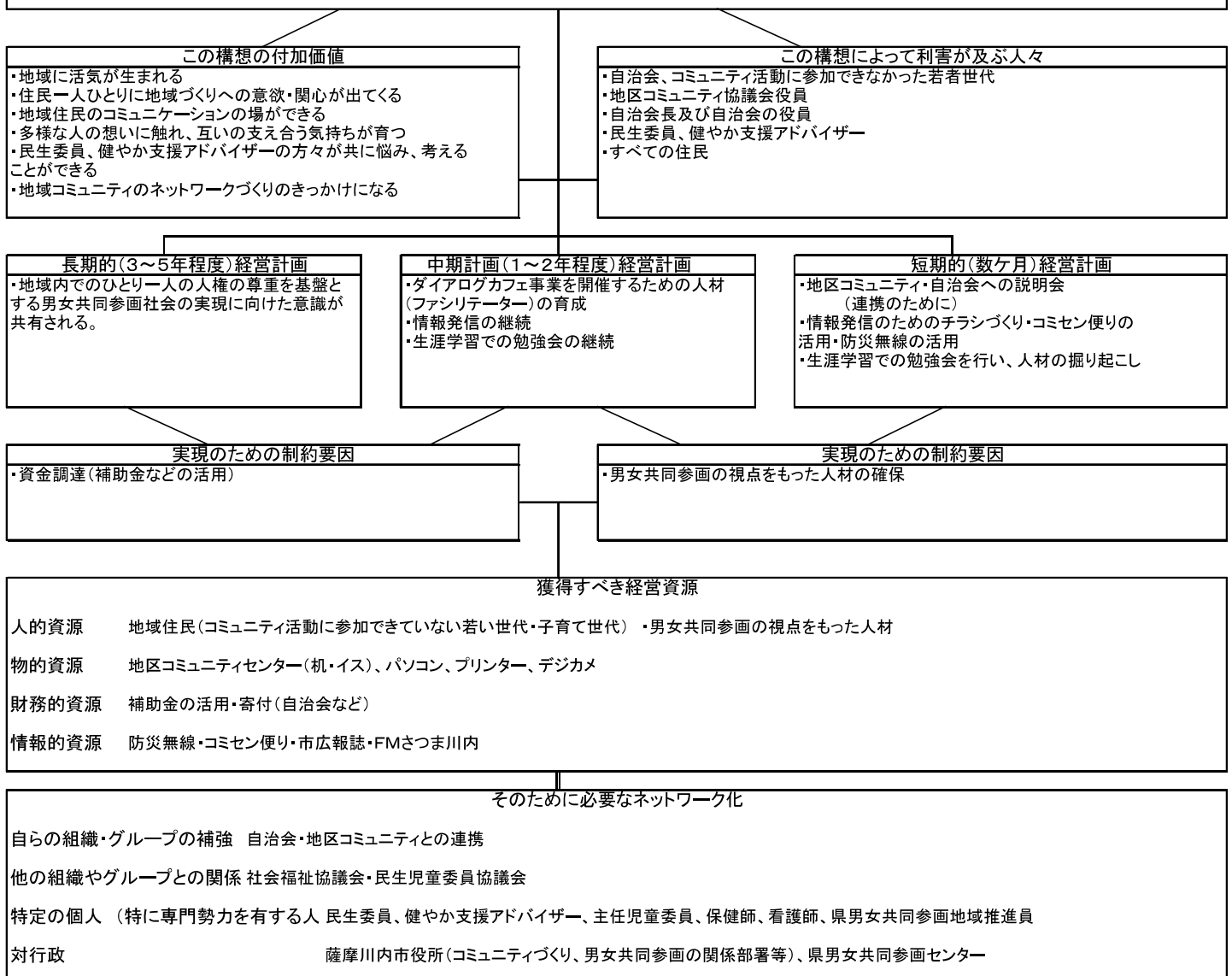
①雇用・就業環境による経済的困難の解消

②若い世代・子育て世代の困り事や悩み事を話す機会・場の提供の必要性について問題意識を深めることができた。

このような問題意識に至ったのは、テーマについての情報を収集することから始まった今回の作業を通して、自分たちの固定観念を捨て「ひとり一人の人権」を大切にしながら話し合いを進めることができたからである。

この実感が、私たちの事業『ダイアログカフェ(なんでん語ってみろ会)』の構想に繋がった。

実施場所として地域コミュニティセンターを利用。ダイアログカフェの趣旨や内容がわかるようなチラシづくりをする他、防災無線やコミセンだよりなどを通して地域住民全体に広報する。若い世代・子育て世代から高齢者世代までの幅広い人々が集まり、話す(つぶやく)ことで、多様な人々の想いに触れ、心も軽くなる。つぶやきの中からコミュニティで支えていけることも見つかる。



「ひとりひとりの知恵を活かそう「青空コミュニティ」事業」の構想

(よいやんせ・かたいもんそ・じゃったじゃった)

安心して生活できる地域コミュニティづくりを目指して

保健福祉分科会（１～２班） 吉川、遠矢、中村、野久尾、濱田

私たちのグループは、誰にとっても生活の基盤となり、支え合いの基盤である地区コミュニティ協議会や自治会活動のありかたについて話し合う中で、地域で生活している人々が抱えている様々な悩みは多様化しているという現状が浮かび上がった。メンバーの住む地域は世帯数が少なく高齢化率も比較的高い地域で、自分自身がこれからどのようにこの地域で生活していきたいか、自分たちに何ができるかを頭に浮かべつつ、調査、研究のテーマを「安心して生活できる地域を目指して」にした。

○テーマについての現状として把握されたこと・・・○元気で生き生き生活している高齢者等がより元気に充実した生活が送れるよう地域活動への参画を進める環境づくりと支援が求められている。○高齢化率の高い地域が子育て世代にとっても住みやすくなるような地域コミュニティ活動へのニーズが潜在している。○地区コミュニティ協議会の活動が自治会における活動と対応しておらず、地域の人々の多様なニーズを捉えきれていない。○ひとり暮らしの高齢者の見守りや生活上の困難を抱えている人への支援の方法は、地区によって異なり多様なニーズが潜在している。○活動の重労働や回数の多さに、高齢化率の高い地区においては、若年者の負担が大きい等自治会のありかたに様々な課題がある。これらの現状から、私たちは、誰もが安心して生活するためには、地区コミュニティ協議会と自治会を中心とする地域コミュニティが果たす役割の重要性についての認識を深めることができた。

このような現状確認から誰もが安心して生活できる地域を目指していくためには、○高齢者・子育て世代等誰もが安心して生活できる支援と交流を促進する地域コミュニティづくりが必要であることを重点課題として抽出した。その背景には、現在、地域コミュニティ活動に私たち自身が関わる中で、○地区コミュニティや自治会で行われているいきいきサロンなどに参加している高齢者は元気で生き生きしているが、ひとり暮らし、閉じこもりなど社会参加を嫌がる人もいる。いきいきサロンの運営方法のマニュアル化が嫌な人もいる。高齢者が自信や誇りをもって参加できているか。○高齢者、子育て世代など地域の多様な人との交流する場や機会があまりない。○私たちの地域は、誰もが、困った時に「助けてほしい」と言えるコミュニティになっているか？○ひとり暮らしの高齢者の見守りや生活上の困難を抱えている人への支援や環境づくりをどのように行ったらいいかということについての地域での共通認識が不足している。等の思いがあり、これらの思いを踏まえた課題解決に向けて、この「青空コミュニティ」事業を考えた。「青空コミュニティ」とは、地域の多様な人との交流の積み重ねの中からさり気ない支援が生まれるような身近なコミュニティとしての場や機会のことであり、庭先や縁側、地域にある空きスペースや廃校等を利用して地域の中にたくさん創り出していきたいと考えている。「よいやんせ（集まって）かたいもんそ（おしゃべりして）じゃったじゃった（共感して）」このような多様な人が集まる場や機会から、地域に住む人々が持ち得る技術や経験等ひとりひとりの知恵を活かした「助けたり助けられたり」のさり気ない支援の輪が広がることが期待される。

この構想の付加価値

○ひとり暮らしの高齢者が地域に出る機会が増える ○話を聞いてもらえる、おしゃべりする相手ができることで「閉じこもり」による様々な問題の防止につながる
○高齢者が頼りにされることで生きがいにつながり元気になる ○子供と触れ合うことで生きるちからをもらえる ○世代間の交流が盛んになり、地域ぐるみで子育てという意識が生まれる ○若い世代がコミュニティに関心をもつようになり地域活動に参加するきっかけづくりとなる

この構想によって利害が及ぶ人

○高齢者・子育て世代の人など地域に住むすべての人
○閉じこもりがちの人
○ひとり暮らしの人
○いきいきサロンのような場が苦手な人
○地域のために何かお役に立ちたいと思っている人でその機会がつかれない人

長期的(3～5年程度)経営計画

○青空コミュニティ事業の定期的開催
○得意分野を活かして販売し収益を上げる（活動資金の確保）
○いきいきサロンや地区の行事などのおもてなしを行う

中期的（１～２年程度）経営計画

○お茶のみやおしゃべりからの情報をもとに得意分野の掘り起し（季節の料理・郷土料理・工芸等）
○子育て世代と地域の交流

短期的(数ヶ月)経営計画

○地区コミュニティ協議会や自治会に事業の説明
○行ってみたくなる案内文や声掛け方法の検討（お茶をのみんそや～）
○話を聞き興味や特技の掘り起し
○縁側や庭先でのお茶のみの実施（空きスペースの確保）

実現のための制約要因

○場所の確保（廃校・空きスペース） ○資金調達

実現のための制約要因

○場所の確保（庭先・縁側・空きスペース） ○地区コミとの調整（行事・会場・人的・金銭）

獲得すべき経営資源

人的資源 ○地元住民、地区コミュニティ協議会の支援、レクリエーション協会
物的資源 ○空きスペース、庭先・縁側を借用、廃校する学校の利活用
財務的資源 ○補助金の活用
情報的資源 ○地区コミ便り、市民活動情報サイト、FMさつまさんだい

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強・・・・・・・・・・事業を実施する中で賛同者を広げていく。
他の組織やグループとの関係・・・・・・・・・・地区コミュニティ協議会、レクリエーション協会等
特定の個人（特に専門能力を有する人）・・・・・民生委員、健やか支援アドバイザー
対行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・薩摩川内市コミュニティ課、男女共同参画係等関係部署

「みんなの食堂事業」構想

保健福祉分科会（2—1班） 石原（ミ）、窪田、堂脇、鳥越、萩迫

○高齢者一人ひとりの日々の生活を地域で見守り支えるために、この事業構想を立案

私たちの調査・研究のテーマ「高齢者の地域生活について」

- ・**テーマについて現状として把握されたこと** ①高齢者が抱える生活課題は「公助」で対応できない暮らしの基本的なことで「共助」による支援が求められている。
- ②日常生活での業者に頼むほどではない細かな事や、日々の食事のこと、文書への対処などを相談する先がなくて困っている人がいる。
- ③一人暮らしの高齢者は、地域の人々とのコミュニケーションの機会が少なくなり《閉じこもり》の状況になり易く、高齢者サロンなどがあっても、人付き合いが苦手だったり、内容に興味を持てなかったりして、参加したくない人、できない人もいる。

・**課題として提起されたことを集約すると** 高齢者の地域生活を支える「公助」には限界があるので、高齢者や高齢者を看ている家族が抱える生活上の困難を、地域住民の一員として共に生きる私達は、どのように支えていけばよいのか？という問題意識を深め、高齢者一人ひとりを見守り・支える、地域コミュニティによる「共助」のかたちを創る必要性が提起されました。

この「共助のかたち」について話し合いを進める中で「高齢者サロンなどに出席けられない人にこそ支援が必要である。」との認識のもと、そのような人達をどうしたら支援できるかを考え、まず困っていることを気軽に相談できる関係を築くことが必要であるとの結論に達した。高齢者が主に住んでいる地域は、交通の便が悪く店がなく、買い物ひとつでも大変である。健康維持のためにも一日も欠かすことのできないのが食事である。毎日3回の食事を作ることが高齢者にとってどれだけ大変で、面倒で、かつ労力を要することか。だから、生きていく上で最も根本的かつ重要な食事を提供する「場」を作り、一緒に食事を作り食べることを通して、困っていることを気軽に相談できる関係を築き、地域の人々が日々の暮らしの中で、周りの人のことを少しずつ気にかけるしくみを作り、地域の人達は地域の人達で見守り支える体制を構築する。

また、日常的には近くの人が見守りつつ、支援の必要な人の情報を集約することで、民生委員・女性アドバイザー・自治会長等との連携をはかり、見えないセーフティネットを構築することができる。

多様な人が集まれば、日常のちょっとした困り事は、誰かが対応できるしくみを構築することもできるようになる。

この構想の付加価値

- ・きちんとした食事をとることで健康な体づくりができ、医療費も削減される。
- ・人と会話することで孤独感から解放され、自分の作った物が使われることで生きる喜びを感じることができ、次を楽しみにすることで生きること積極的になる。
- ・住民同士の情報交換の場となる。
- ・気軽に相談できる人、場所があることで、安心して生活することができる。

この構想によって利害が及ぶ人

- ・民生委員、健やか支援アドバイザー、自治会長等の役職にある人
- ・コミュニケーションが苦手な孤立するおそれのある人
- ・地域で野菜等づくりをしている人
- ・調理をする人、施設管理をする人
- ・情報を取得できないため、利用できる行政サービスを利用できていない人

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・利用者の支払う食事代で経費（材料費、人件費等）が全てまかなえ、食堂の運営が軌道に乗る。
- ・宅食サービスを展開する。
- ・低額でちょっとしたお手伝いを頼み頼まれるしくみができあがる。

中期的(1～2年程度)経営計画

- ・食堂オープンの宣伝をする。
- ・メンバーが増え、平日のみ毎日食堂を開くことができる
- ・見守りが必要な人を近所の人が見守り、民生委員等との連携をはかる。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・中心メンバーを募り代表者を決め実施計画を作成。
- ・利用候補者へのアンケート、市場調査を実施する。
- ・場所を選定する。(バリアフリー・車いす等にも対応できる場所)
- ・保健所等の手続きをする。
- ・資金を調達し、設備を整え、スタッフを募集する。
- ・見守りが必要な人の情報を集約する。
- ・地区コミュニティ協議会、自治会への事業説明

実現のための制約要因

- ・メンバーの確保
- ・施設の管理
- ・食中毒等の事故への対応
- ・食材の調達
- ・資金調達

実現のための制約要因

- ・代表者のなり手の確保
- ・メンバーの確保
- ・資金調達

獲得すべき経営資源

- | | | |
|-------|--|------------------|
| 人的資源 | ○主婦 | ○栄養士、調理師等の資格を持つ人 |
| 物的資源 | ○場所(小学校跡地等) 備品(机・椅子等) 食器類、調理器具等 | |
| 財務的資源 | ○運営資金、(人件費、光熱費、材料費、設備費、消耗品費、保険料等) | |
| 情報的資源 | ○口コミ、行政との連携・各種メディア(新聞・TV・FMラジオ・ネット)の活用 | |

そのために必要なネットワーク化

- | | |
|---------------|--------------------------------------|
| 自らの組織・グループの補強 | ○人的資源としての一人ひとりのメンバーの掘り起こし。 |
| 他の組織やグループとの関係 | ○地区コミュニティ、社会福祉協議会、民生委員・児童委員協議会などとの連携 |
| 対行政 | ○薩摩川内市役所(コミュニティ課、関係各課)、保健所など |

私たちメンバー間で共有された「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の問題から
【高齢者が抱える生活上の困難を地域コミュニティで支えるちからを生み出す交流の場づくり】の事業構想

保健福祉分科会（２－２班） 上城、川上、塩向、二之宮、原口、の場

薩摩川内市の高齢化率は２６．９％（平成２３年度）で、全国の高齢化率を約３％上回っており、今後も高齢化率の上昇が予想される。急激に過疎化が進み、地域での生活が困難になっている地域もある。このような状況の中、私たちのグループは高齢者が地域生活で抱える問題について意見を出し合い、特に「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の状況についての問題意識を共有し、調査・研究のテーマを「高齢者が抱える生活上の困難を地域コミュニティで支えるちからを生み出す交流の場づくり」とした。

【現状として把握されたこと】

- （Ａ）学童保育の状況等、子育て世代の若い人達を支える地域環境が若い人達と地域の関わり方に影響している。
- （Ｂ）自立への意欲のある高齢者の取組が活性化につながっている地域もある。
- （Ｃ）ひとり暮らしの高齢者等を地域で見守りや支援が十分にできていない状況がある。
- （Ｄ）高齢者にとって移動手段の確保と、その使い易さは地域との関わり方として影響を及ぼし「閉じこもり」の要因となっている。
- （Ｅ）高齢化が進行する地域では生活上の困難や不安を抱えて介護している人も多く、身近な相談や支援へのニーズが潜在している。

【課題として提起されたこと】

これらの現状から課題を抽出する過程で、特に現状の（Ｅ）について、介護保険サービス、健やか支援アドバイザーや民生委員・児童委員等の訪問等行政機関等による見守り支援等は実施されているが、ひとり暮らしの高齢者等で頑なに訪問を拒む人や家に閉じこもっていて地域との関わりを拒む人がいる。このような人たちにこそ身近な相談や支援へのニーズが潜在し生活に身近な困難や悩みがあり、それを支援するには行政サービスでは限界があり、身近な地域コミュニティによる支援が必要であるという認識を深めた。そして、私たちは、**どのような仕組みなら、どのような場なら、現在のサービスが届いていない「環境が作り出す高齢者の閉じこもり」の中にある人たちを支えることができるか**について話し合い、地域コミュニティによる「だれもが気軽に通える交流の場づくり」の展開を考えた。**「だれもが気軽に通える交流の場」とは、地域の人との関わりを拒む人たちも受容できる、誰にとっても居場所となるよう日常の暮らしに続いている「茶飲み場」のこと**であり、このような場に生まれる当事者視点に根差した交流のちからによりここで地域で暮らす高齢者と生活上で困っていること等を語り合い、その中から見えてくる必要な支援をボランティア意欲のある方とつなぐ役割を担うことである。

これらの現状から重点課題は、「行政に頼らない、地域で支援していく仕組み作り」と考察を進めました。私たちが行うサポートとしては、

- ① だれもが気軽に通えるお茶飲み場をつくる。
- ② 地域で暮らす高齢者の生活上で困っていることを語り合い、ボランティア意欲のある方とつなぐ役割を担う。
- ③ 介護者や子育てに悩んでいる人をお互いに支え合える場をつくり、必要なときは行政サービスや相談機関につなげられるネットワークの役割を担う。

【この構想の付加価値】

- ①生活上の困難を抱えている高齢者の支援をし、生活状況が改善する。
- ②悩み事を抱えている高齢者や介護者、子育て世代の方が、気軽に相談できる場づくり、行政や地域の相談機関とつながる。
- ③高齢者の持っている特技（日曜大工・剪定、掃除など）を地域で活かし、生きがいづくりにつながる。④当事者同士の交流から生まれる自助グループにより相互関係をつくる。

【この構想によって利害が及ぶ人々】

- ①地域との関わりを拒み、閉じこもりがちな人。
- ②環境の問題（距離・路上）や身体的な障害があることで移動困難な人。
- ③生活上の困難を支えるケースワークに関わる専門家（民生委員、アドバイザー）。
- ④ボランティア意欲や専門的知識があるが、その機会にめぐまれない人。
- ⑤相談を受ける公的・民間機関。

【長期的（３～５）年程度】経営計画】

- ・活動拠点となる場の確保。
- ・高齢者が行う生活支援をボランティアから有償ボランティアへ事業体制の確立。
- ・夕方や土曜日などに児童が集まり、高齢者が見守りや遊び（伝承遊び）を提供できる場作り。

【中期計画（１～２年程度）】経営計画

- ・定期的なお茶飲み会の開催。
- ・悩みや困ったことを受けた際に、特技（日曜大工、包丁研ぎ）をもった高齢者を地域への排出できる、ネットワークづくり。
- ・地域活動の担い手のとなる若者の育成。
- ・児童を持つ家庭への事業の説明、呼びかけ。

【短期的（数か月）経営計画】

- ・事業の広報活動
- ・地区コミュニティや自治会への事業の説明と周知。
- ・ボランティア意欲のある人や専門的な知識・技術を持っている方への説明と協力。持っている「スキル」の把握とリスト作成。
- ・生活支援に関わる行政サービスの調査と連携。
- ・一人暮らしの方への協力の申し出
- ・お試しでの月２回程度のお茶会の開催。

【実現のための制約要因】

- ・場所の確保（空き家、庭先、縁側、空き部屋）
- ・高齢者の特技の引き出し
- ・若者の協力体制の確立
- ・ボランティアの確保
- ・地区コミとの調整（イベント、人）
- ・運転資金

【実現のための制約要因】

- ・場所の確保（空き家、庭先、縁側、空き部屋）
- ・高齢者の特技の引き出し
- ・若者の協力体制の確立
- ・運転資金
- ・ボランティアの確保
- ・地区コミとの調整（イベント、人）

【獲得すべき経営資源】

人的資源：地元住民、地区コミュニティ協議会、特技をもった高齢者
財務的資源：補助金の活用（市民活動補助、空き家再生利用補助金）

物的資源：空き家、庭先、縁側、空き部屋、
情動的資源：地区コミ便り、メディアの活用（ＦＭさつまさんだい等）

【そのために必要なネットワーク化】

自らの組織、グループの補強：事業を運営するための協力者や賛同者を得る。メンバーの掘り起し
他の組織やグループとの関係：地区コミュニティ協議会
特定の個人（特に専門能力を有する人）：民生委員（児童民生委員）、健やか支援アドバイザー、地域ボランティアグループ
対行政：薩摩川内市コミュニティ課男女共同参画グループ、社会福祉協議会、保健センター、生涯学習センター、県男女共同参画センター、県共生・協働推進課

～地域コミュニティづくりへの女性の参画の促進を目指して～

「ゴールド集落における高齢者の生活支援の充実を図るコミュニティサロン展開事業」の構想

産業経済分科会（3－1班） 内野、大原、木村、徳永、松永

薩摩川内市においては合併後、各地域の地域コミュニティ団体を「自治会」という呼称に統一し、新たに自治会を含む各種公益団体を統合して、概ね小学校区を範疇とする「地区コミュニティ協議会」が設置された。その背景には、合併によって行政区域が広がり住民の声が行政に届きにくくなるのでは？ということがあったと聞きましたが、私たちは今も「地域コミュニティにおける地域課題をみんなで考える場がない～」という思いを共有する中で、地域コミュニティの方針決定への女性の参加の現状についての問題意識が深くなり、私たちのグループの調査研究のテーマを「女性の参画による地域コミュニティづくり」とした。

テーマについての現状として把握されたこと

○地区コミュニティ協議会、自治会の運営には、依然として固定的な性別役割分担意識が根強い。○地区コミュニティ協議会には、多様な人々が抱える多様な生活課題の解決を目指す活動のありかたが期待されているが、地域住民の声を代弁しているとは言えない状況にある。○世代・性別・障がいの有無などを越えた多様な住民が交流する場が少ない等。

これらの現状から抽出された課題は

地域で暮らす私たちが、地域生活者の視点で生活環境を見直し共通の課題のもとに自治と共同の力で地域生活課題の解決に向けた活動の場である地域コミュニティにおいて、様々な活動に住民の多様なニーズを反映するためには、○世代・性別・障がいの有無などを越えた多様な住民の参加と交流の機会と場を地域コミュニティにつくりだすこと ○地域コミュニティづくりに向けた活動において、さらに生活支援の充実を図ること ○地域コミュニティにおいて女性の参画が進まない要因となっている意識改革と慣行の改善に取組むことが必要であるということに集約された。

これらの課題を解決するために

私たちが構想した地域づくり事業は、世代・性別・障がいの有無などを越えた多様な住民の参加と交流の機会と場を地域コミュニティにつくりだすことを意図した地区生涯学習の新たな展開を基盤に置く。この中で、女性の参画を阻害する要因ともなっている、地域コミュニティづくりには「一人ひとりの人権の尊重」を基本として多様な人々の多様な個性と能力が生かされることが不可欠であることについて地域住民の意識改革とコミュニティづくりに係る運営や活動のありかたにおける慣行の改善に向けて取り組む。この基盤を踏まえる地域コミュニティによる地域生活課題の解決に向けた実践の場として、現在、地域コミュニティにおいて様々な形で行われているサロン活動に注目し、特に、一人暮らしの高齢者支援活動や見守り安否確認事業など地域の実情からのニーズが高いゴールド集落の高齢者に係る生活支援の充実を図るコミュニティサロンの展開に取り組む。

①「地区生涯学習の新たな展開」②「生活支援の充実を図るコミュニティサロンの展開」は連関しており、①によって多様な住民の参加と交流の機会と場がつくりだされることによって、地域コミュニティの「共同と自治」の力によって取り組むべき地域生活課題は何か・・・が共有され②に住民の声が反映される。また①によって地域コミュニティづくりや男女共同参画の学習を実施することにより、女性をはじめ多様な人の地域コミュニティづくりへの参画が促進され、その学習の成果を還元する参画の場として②に取り組む。①、②の取組を通して、地域コミュニティづくりを積極的に担う多様な人材を養成する環境を整えることにより女性のリーダーを増やしていきたい。

この構想の付加価値

- ・多様な住民の参加と交流する機会や集まる場が作り出される。
- ・地域コミュニティの「共同と自治」の力によって取り組むべき地域生活課題が共有される
- ・住民の声が反映される
- ・地域コミュニティづくりや男女共同参画の学習が実施される
- ・学習の成果を還元する参画の場として取り組める
- ・本事業の取組を情報誌等で広報し全市民的に発信することにより他のゴールド集落におけるコミュニティづくりのモデル的事例として提示し、そのきっかけとなる。
- ・自治会への加入が促進される。

この構想により利害が及ぶ人

- ・対象地域に暮らす住民
- ・過疎地域（ゴールド集落の住民）
- ・地区コミ関係者
- ・子育て世代の親子
- ・シングルマザー
- ・シングルファザー
- ・高齢者
- ・現行の生涯学習を担っている人
- ・現行のふれあい・いきいきサロンを担っている人

長期的（3～5年程度）経営計画

- 新たな展開による生涯学習の定着
- ゴールド集落コミュニティサロンの定期的開催の定着
- ゴールド集落におけるコミュニティづくりを考える報告会または、座談会
- シンポジウム等の開催・・・ゴールド集落の人々の姿を写真で記録。
- 地区コミ巡回写真展の開催 世代・性別・障がいの有無を越えた多様な住民が参画する場の実現のためにコミュニティサロンを開催。女性リーダーの誕生をめざし、そのプロセスで育つ女性たちと多様な人が共生するコミュニティづくりに向けた協働推進の場を確立する。相乗的に自治会加入が促進され、住民が自ら参画する事業の誕生となる

中期的（1～2年程度）経営計画

- 生涯学習講座開設に向け講座のプログラムを住民参加で考える。
- 生涯学習の順次実施。
- 生涯学習のプログラムにおいて人的資源となる知恵や技術を提供してもらいたい人、物的資源を提供してくれる人への協力要請。
- コミュニティづくり講座
- 「男女共同参画講座」
- 地域への思いを語るワークショップの開催
- 生活支援の充実を図るゴールド集落コミュニティサロンの実施に向けた内容の検討
- コミュニティサロンの利用を働き掛ける広報活動
- コミュニティサロンの運営に係るボランティアの確保と研修の実施
- ゴールド集落コミュニティサロンの開催「生涯学習で得た成果を生かす場・実践の場にする」
 - ・一人暮らし高齢者の安否確認弁当配達事業→地元畑で採れた野菜を中心におかずを調理（1パック100円）で届ける（料理を学びながらボランティアで安否確認）
 - ・まごころ郵便配達事業→配達員による声かけ（週1回）、季節の便りを届ける（絵手紙など）
 - ・畑で作った大根で切干大根づくり（1袋100円）で販売。畑でできたジャガイモでコロッケなどつくりコミュニティで会食・販売した売り上げを貯めてみんなで温泉旅行・夏祭り、運動会（企画・運営・実行）に地域全員が1人1役。
- 生涯学習・コミュニティサロンの実施後の評価

短期的（数ヶ月）経営計画

- ゴールド集落の地区コミ、自治会役員への事業説明会を開催
- 事業の主体となる人材確保のためのアウトリーチ活動（実施地の女性の参画を働き掛ける等）と、その組織化
- 事業の実施候補地へのアウトリーチ活動
- 事業の実施地とするゴールド集落の住民を対象とする事業説明会の実施
- 実施地のゴールド集落における現状や課題をお互いに知り、考える意見交換会の実施
- 住民アンケートの実施に向けた調査票の作成
- 住民アンケートの実施
- どこにだれがいるかまたは、どこに何があるかを共有する実施自治会エリア内の社会資源調査の実施
- 意見交換会・住民アンケート調査・社会資源調査の分析
- 実施地の状況を踏まえた事業構想の調整

実現のための制約要因

○活動をする場所の確保

- ・実施主体となる人たちの活動拠点
- ・コミュニティサロンや生涯学習のための場所

実現のための制約要因

- ・地域住民の協力
- ・ボランティアの確保
- ・事業に賛同する地区外協力者の確保
- ・実行するためのスキル
- ・活動資金の調達

獲得すべき経営資源

人的資源・・・実施地となるゴールド集落の住民 生涯学習・コミュニティ・サロン実施のための知識・技術を有する人
情報的資源・・・市が発行する（市民だより）等各種広報紙・誌、市HP、FMさつませんたい、新聞、テレビ、学校・幼稚園等
物的資源・・・地区コミ会場

財務的資源・・・運営するための資金

そのために必要なネットワーク化

- ・協力してくれるメンバーの掘り起し
- ・鹿児島県共生・協働推進課
- ・男女共同参画センター
- ・NPO法人
- ・薩摩川内市役所（コミュニティ課、社会教育課、教育委員会、高齢介護・福祉課等）
- ・薩摩川内市社会福祉協議会
- ・民生委員
- ・健やか支援アドバイザー
- ・地区コミ役員
- ・自治会長

「豊かな地元産物を買いたい人を掘り起こす」地産地消 WIN WIN 事業の構想 産業経済分科会（3～2班） 江口、大坪、小原、永吉、橋渡 〇メンバーは、地域生活者としての女性の声が生かされていないと感じていないと多く、「女性の声を生かした街づくり」というテーマで情報を集め協議してきた。その中でも、消費者として地元の豊かな食材をもっと日常的に利用したいというニーズと、産物を提供する側とを結び組むを、さらに深めて広げる必要があることに着目した。私たちは、地元の豊かな食材が地元で日常的に流通することは、食文化の豊かさに関わり、生活文化の質の向上につながるかと考えている。広大な本市にて、情報のない取りをするには、物理的な距離に関係なく情報交換ができるインターネットによる仕組みを利用しようと思った。そうすることで、旬の地元産物を手軽に入手できるようになり、消費者・生産者双方に益（WIN WIN）をもたらすのではないかと考えた。また、私たちは考えるしくみの中で、生産者の女性との連携を図り、生産者と消費者の双方の立場をより体現できる生産者の女性の地域農業への方針決定の場への参画をさらに進める機会としたい。 現状として把握されたこと ①街づくりに関わる政策・方針決定の場に女性の参画が少ない ②政策決定などの場に女性の意見が少ないから、生活者のニーズが地域経済に十分に反映されていない。 か、何が旬なのか、誰に聞けばよいか ④安心して買えるような生産者の顔が見える地元産物についての情報があまりない 私たちが行う地産地消の仕組みづくりとは - I 地産地消情報交換ウェブサイトを作る……ホームページ（HP） 情報交換ウェブページ（HP）には、次のような書き込みが可能である。 ＜生産者側＞ ア）旬の生産物名、イ）商品説明（特徴、生産期間、安全性など） ウ）生産者情報（氏名、顔写真、連絡先など） エ）商品の写真、生産過程の写真、オ）購入可能な場所、カ）販売価格（希）キ）販売可能期間 ク）在庫表示 ケ）地方発送の有無 コ）生産者の女性に関する情報 など ＜消費者側＞ サ）生産物を消費した感想など シ）希望、意見 など なお、産物としては、農水産物、その加工品など、本市で製造・生産される物のことである 例 農水産物（野菜、果物、鮮魚、精肉、生卵、調味料、穀物など） 加工品（花苗、生花、盆栽、紙など） - II SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などによる定期的な情報の発信・意見収集 ①HPを作るだけでは情報や利用は広がっていくかないので、フェイスブック（FB）などのSNSを使い、定期的な情報の発信、拡散を考える。また、コメント（意見データ）の収集整理。 例 料理レシピ、美容・医療情報、イベント情報、店舗情報、生産ニュース、物産マップ、モニター報告、Q&A、使用方法、生産者の女性の生産情報、その他 ②さらに、情報の拡散・利用を増やすための工夫 現存するネットショッピングでは、コメントを上げると送料割引になったり、お店でアプリの画面を見せると割引されたりするのを参考に、さらなる工夫を考える。 - III リアルな人とのつながりイベント、生産者と消費者の集い ①必要に応じて人気商品の交流市場を実施する。売り買いだけでなく、交流できる場も設ける。 ②ネット以外での情報発信、講習会、講演会等のイベント、その他。 ③地産地消メニューの料理・商品を出す協力店舗を募集する。 - IV インターネット使用のための講習会の開催 ・インターネットを使いたいけれど使い方が分からない、スマートフォンを持ちたいと思っいていてもあきらめている人に、講師を派遣し使い方を教える。自治会単位の少人数制、この事業の参加を促す。講習料は運営費に充てる。	この構想の付加価値 ・食文化の豊かさにつながり、生活文化の質の向上に寄与する ・生産者と消費者の交流促進により消費者のニーズが分かり、個々の生産者の経営に役立つ ・地域農業の振興の方策として定着することにより地域活性化につながる ・近場で物流が可能になると環境に良い ・販売ルートに乗らない産物の有効活用が図られる ・インターネットの利用活用による買い物弱者への貢献（通販他） ・女性の声が集められ、女性の社会参画のきっかけになる ・生産者の女性の収入増につながり、地域農業の方針決定の場への参画がより促進される ・市民が地元で愛着を持つようになる ・住民間の交流の機会が増える ・インターネットの利用普及につながる この構想によって利害が及ぶ人々 ・消費者 ・生産者 ・インターネットを利用する人 ・インターネットを利用しない人 ・特に地産地消にこだわる人 ・生産者の女性 ・地元産物の小売店、食堂
--	--

	</		

事業名「小規模校区から発信！！ 一人ひとりが活かされるネットワークづくり事業」の構想

※小規模校区のことは薩摩川内市（全体）のこと、（小規模校区で）生活する一人ひとりが活かされて暮らすことができるネットワークを構築する。

教育文化分科会（4－2班） 江藤、川路、坂元、新満、西、藤本

私たちのグループでは、小規模校区で暮らす人々の生活の現状についての意見がたくさん出ました。その意見を集約し、「そこに住む人 一人ひとりが活かされる」ことで小規模校区の活性化を目指して、私たちの調査・研究のテーマは「小規模校区を活性化して盛り立てる」としました。

現状として把握されたこと

テーマについて収集した情報を基にした【現状把握】→【重点課題の抽出】の過程で、私たちは、小規模校区に暮らす人々が、小さな地域コミュニティの中で生き生きと暮らすためには、全市または全国的課題とは別の小規模校区が抱える特有の困り事の解決に向けて、特有の行事や文化等小規模校区ならではの特色を活かした取り組みが必要であるという認識を得ました。小規模校区における行事や文化は、○地域の伝承文化を引き継ぐ人材が減少している。（子どもたちが減少していくなか、伝承文化を引き継いでいけるのか不安。）○行事やイベント等の情報や他地域の情報を得にくい。等の現状にあります。地域の行事や文化は生涯学習と関わりが深く、生涯学習は地域の人の暮らしの豊かさを支えるものです。しかし、小規模校区の生涯学習等地域における＜学習＞サービスについては、地域での学習サービスを受けるためには、人数（5人以上）の壁があり、小規模校区においては、学びたくても学べないということもあります。また、小規模校区は、子どもが少なく高齢者が多いという現状です。高齢者は経験が豊かな人や知恵や技術等を持っている人が多く、高齢者を「人材」として活かすことは、自治会や地区コミュニティ協議会における活動の中で校区の活性化を図る方策として重要です。

課題として抽出されたこと

以上のような問題意識を踏まえて、私たちは、私たちの考える「小規模校区の活性化」とは、○そこに生活する一人ひとりが活かされて暮らすことができる地域の姿であることを目指して、そのための方策として、小規模校区のことは薩摩川内市全体のことという考え方を柱とする地域づくり事業を構想しました。この事業の「ネットワークづくり」とは、○生涯学習等、学習に関する情報を共有できる仕組みづくり（少人数でも「いつでも、どこでも、だれでも」学べる仕組みづくり）○地元のみならず、全市的に伝承文化を守っていく仕組みづくり（地元の文化としてだけではなく、市全体の文化として捉え守っていく仕組みづくり）○自治会や地区コミュニティ協議会同士が交流する仕組みづくり（市内の48地区コミュニティ協議会や各地区がエリア（地縁）を超えて世代間交流を行う仕組みづくり）を想定しています。具体的には

- ①市全体のイベントや行事、生涯学習等の情報を一箇所でまとめ、交流するネットワークを創出する。このことでどんな時期にどんな行事があるのかわかるので全市の様子が把握できる。
- ②①を踏まえて、各地域にある文化や農産物、加工品などの販売イベントを、小規模校区で開催し、交流できるイベントを開催する「しかけ」を創出する。ここでは同じような行事があればまとめるなどして精選していくこともできる。
- ③生涯学習やイベントの中で過不足や応援（人の、物事の）をし、市全体で交流する。
- ④廃校の利用や発掘した文化等で観光ツアー（日帰り）などができるようにしたい。市全体で人の交流をしながら文化の伝承やいきいきと暮らす一人ひとりの地域に暮らす人をイメージしながらしかけを創出する。

この構想の付加価値

- 小規模校区が主体となって運営することによって、人や物が動き、小規模校区の活性化につながる。
- 各地域で伝承することが止まっていた文化が復活することができる。
- 情報が1局に集約（一元化）できるとこで人の過不足の調整や相談等がしやすくなる。
- これまで各地域や地区でしか行われてこなかった伝承文化や行事等を知ることができる。さらに応援したい方々によって復活することができる。
- イベント情報を得ることができなかった興味のある人が参加し交流することができる。
- 人数の壁によって学びたくても学べなかった人が学ぶことができる。
- 各地域でしか活動できていなかった人が、広く他地域の活動にも関わることができ交流の輪が広がる。
- 交流が生まれ、一人ひとりが活躍する場が創出されることが期待できる。
- 地域で活動していた人が他地域でも活躍の場を見出すことができる。
- イベントの開催によって地域の人々、一人ひとりが関わるができる。
- 伝承文化やモノづくりなどの得意な人材が活かされる。
- 廃校を利用し、その地域の地域資源として運用・活用できる可能性が生まれる。

この構想によって利害が及ぶ人

- 小規模校区に暮らしている人
- 小規模校区の活性化を応援したい人
- 地域の文化に関心のある人
- 各地域イベントや行事の情報を発信したい人
- 各地域イベントや行事の情報を入手したい人
- 地域を超えて多様な人との交流を求めている人
- 地区を超えて生涯学習で学びたい人
- 行事やイベントの実施に際して備品や人等の限界を抱えている地域・人

長期的(3～5年程度)経営計画

- ・情報収集活動・実際に行なわれている行事に出掛けて実体験する。
- ・人手の少ない祭りや伝承文化について協力の呼びかけをする箇所が次第に増えている。
- ・これらの出会いから別のような交流が期待される。
- ・祭りや伝承文化だけを集めたイベント等 薩摩川内市らしいオリジナリティーのあるイベントが開催できている。
- ・人や物を結ぶ 活動の場が増え 一人ひとりがいきいきと活動している。
- ・日帰り観光ツアーの実施。

中期的（1～2年程度）経営計画

- ・情報収集活動・実際に行なわれている行事に出掛けて実体験する。
- ・青年会議所や自治会等関係機関との交流会をする。・人手の少ない祭りや伝承文化について協力の呼びかけ、運営をする。
- ・市全体の様子を把握し、イベントなどのバランスを研究する。
- ・イベントを企画しながら、お祭りや地域にある食べ物等で食文化の交流を中心とした、「おもてなし」をする。
- ・軽トラックなども利用したフリーマーケットの開催により資金を集める。

短期的(数ヶ月)経営計画

- ・事業説明会を実施し中心メンバー、ボランティアを募る。
- ・生涯学習や伝承文化や祭り、イベントなどの情報を全市の分を集約する。
- ・小規模校区を応援したい人、してほしい地域を募集し、応援する体制をつくる。(情報発信)
- ・各地域で活動をされている方々との交流会をする。(主に困りごとを聞き取る)

実現のための制約要因

○場所の確保

実現のための制約要因

○資金調達

獲得すべき経営資源

人的資源	中心となる人、コミュニティ関係者・ボランティア・スタッフ
物的資源	場所、備品（パソコン、机、椅子）
財務的資源	運営資金（使用料、通信費、消耗品費等、飲食費等）
情報的資源	各地域のイベント・行事・生涯学習の情報、各コミュニティ、行政との連携、各種メディア（FMさつませんだい、新聞、市広報誌等）の活用

そのために必要なネットワーク化

自らの組織・グループの補強	人的資源としてのメンバーの掘り起し。
他の組織やグループとの関係	各コミュニティ
特定の個人（特に専門能力を有する人）	生涯学習インストラクター、観光ボランティア
対行政	薩摩川内市生涯学習推進本部、薩摩川内市（文化課、社会教育課、コミュニティ課等）

薩摩川内市女性50人委員会活動経過（第5期）

平成25年度

第1回全体会	4月25日（木）	川内文化ホール
第2回全体会	5月16日（木）	川内文化ホール
第3回全体会	6月 6日（木）	川内文化ホール
第4回全体会	7月18日（木）	川内文化ホール
第5回全体会	8月27日（木）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－1 窪田）	7月20日（土）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－2 上城）	8月 7日（水）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	8月31日（土）	川内文化ホール
自主学習会（生活環境 岩崎）	9月 4日（水）	川内文化ホール
自主学習会（教育文化4－2 新満）	9月 9日（月）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	9月 9日（月）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉1－2 野久尾）	9月10日（火）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－1 内野）	9月14日（土）	川内文化ホール
自主学習会（教育文化4－1 永吉）	10月 1日（火）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－1 窪田）	11月19日（火）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	11月21日（木）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	11月22日（金）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－1 窪田）	11月25日（月）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	11月27日（水）	川内文化ホール
自主学習会（生活環境 岩崎）	11月27日（水）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－1 内野）	11月29日（金）	川内文化ホール
自主学習会（教育文化4－1 永吉）	12月 2日（月）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉1－2 野久尾）	12月 3日（火）	川内文化ホール
自主学習会（教育文化4－2 新満）	12月 5日（木）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－1 窪田）	12月12日（木）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－2 上城）	12月16日（月）	国際交流センター
自主学習会（保健福祉1－1 犬井）	12月17日（火）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	12月19日（木）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉2－1 窪田）	12月21日（土）	川内文化ホール
自主学習会（産業経済3－2 永吉）	12月21日（土）	川内文化ホール
男女共同参画基礎講座「まちづくり塾」12月21日（土） 川内文化ホール		
4グループ（保健福祉2－1、産業経済3－1、3－2、教育文化4－2）発表		

自主学習会（保健福祉１－１犬井）	１月 ７日（火）	川内文化ホール
自主学習会（生活環境岩崎）	１月１３日（月）	川内文化ホール
自主学習会（保健福祉１－１犬井）	１月２３日（木）	川内文化ホール
男女共同参画基礎講座「まちづくり塾」 １月２６日（日） 川内文化ホール ５グループ（生活環境、保健福祉１－１、１－２、２－１、教育文化４－１）発表		
第１回代表者会	２月 ４日（火）	川内文化ホール
自主学習会（生活環境）	２月１８日（火）	「森の学校楠学園」視察 始良市蒲生町

平成26年度

第6回全体会 4月17日(木) 川内文化ホール		
第7回全体会 5月 8日(木) 川内文化ホール		
自主学習会(保健福祉2-2上城)	5月12日(月)	川内文化ホール
自主学習会(生活環境岩崎)	5月15日(木)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉2-1窪田)	5月15日(木)	川内文化ホール
自主学習会(産業経済3-1内野)	5月21日(土)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉1-2野久尾)	5月21日(水)	川内文化ホール
自主学習会(教育文化4-1永吉)	5月23日(金)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉1-1犬井)	5月29日(木)	川内文化ホール
自主学習会(産業経済3-2永吉)	5月29日(木)	川内文化ホール
自主学習会(教育文化4-2新満)	5月30日(金)	川内文化ホール
第8回全体会 6月 6日(木) 川内文化ホール		
自主学習会(保健福祉1-2野久尾)	6月17日(火)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉2-2上城)	6月18日(水)	だんだん馬渡視察 南九州市顚娃町
自主学習会(保健福祉1-1犬井)	6月19日(木)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉2-1窪田)	6月25日(水)	川内文化ホール
自主学習会(保健福祉2-2上城)	6月27日(木)	川内文化ホール
第1回代表者会 7月 1日(火) 川内文化ホール		
第9回全体会 7月 3日(木) 川内文化ホール		
第2回代表者会 7月17日(木) 川内文化ホール		
自主学習会(教育文化4-1永吉)	7月30日(水)	川内文化ホール
第10回全体会 8月 7日(木) 川内文化ホール		
第3回代表者会 8月11日(月) 川内文化ホール		
自主学習会(保健福祉2-1窪田)	8月19日(火)	川内文化ホール
第4回代表者会 9月 1日(月) 川内文化ホール		
第11回全体会 9月 4日(木) 川内文化ホール		
第5回代表者会 9月17日(木) 川内文化ホール		
自主学習会(保健福祉2-2上城)	9月21日(日)	清色地区コミュニティセンター
第6回代表者会 10月 6日(月) 川内文化ホール		

薩摩川内市女性50人委員会委員名簿（第5期）（任期H25.4.1～H27.3.31）

生活環境分科会（第1分科会）

1	石原 弘子	上郷	
2	岩崎 敦子	隈之城	班長
3	小島 恵里	平佐西	
4	木場 精子	永利	
5	新 由枝	水引	
6	土田 裕子	可愛	
7	濱田 早苗	水引	
8	宮里 英子	高来	

保健福祉分科会【1班-1】（第2分科会）

1	有馬 正康	黒木	
2	犬井 美香	藤川	副会長、班長
3	梶原 ひとみ	里	
4	香山 由美子	亀山	
5	白男川 千美子	朝陽	

保健福祉分科会【1班-2】（第2分科会）

1	吉川 毬子	樋脇	
2	遠矢 すみ子	吉川	
3	中村 昌代	澹浪	
4	野久尾 弘子	烏丸	班長
5	濱田 優子	寄田	

保健福祉分科会【2班-1】（第2分科会）

1	石原 ミツ子	倉野	
2	窪田 美由喜	可愛	書記、班長
3	堂脇 明美	亀山	
4	鳥越 裕美子	市比野	
5	萩迫 八重子	高来	

保健福祉分科会【2班-2】（第2分科会）

1	上城 智美	隈之城	班長
2	川上 四方子	清色	
3	塩向 礼子	大村	
4	二之宮 洋子	蘭幸田	
5	原口 洋子	脇成	
6	的場 浩子	山田	

産業経済分科会（第3-1分科会）

1	内野 久子	斧淵	会長、班長
2	大原 春美	大馬越	
3	木村 厚子	亀山	
4	徳永 法子	南瀬	
5	松永 恵子	隈之城	

産業経済分科会（第3-2分科会）

1	江口 玉美	手打	
2	大坪 美恵子	育英	
3	小原 美津子	川内	
4	永吉 悦子	副田	班長
5	橋渡 よし江	平佐西	

教育文化分科会（第4-1分科会）

1	宇都 久代	市比野	
2	竹田 千鶴子	湯田	
3	永吉 深雪	隈之城	班長
4	枇杷 眞弓	川内	書記
5	柳 裕子	斧淵	

教育文化分科会（第4-2分科会）

1	江藤 正子	上手	
2	川路 みゆき	八幡	
3	坂元 美津江	峰山	
4	新満 裕子	育英	班長
5	西 道子	轟	
6	藤本 由布子	平佐東	